

Japan  
Food  
Research  
Laboratories

# 試験報告書

第 504060522-001 号  
2004年(平成16年)07月12日

依頼者 株式会社スリーケーコーポレーション

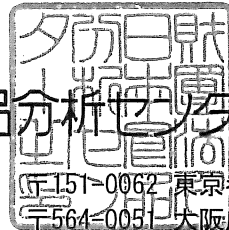
検体 SU-1

表題 脱臭効果試験

2004年(平成16年)06月17日当センターに提出された  
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人

日本食品分析センター



東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号  
大阪支所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町3番1号  
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号  
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号  
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号  
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番

## 脱臭効果試験

### 1 依頼者

株式会社スリーケーコーポレーション

### 2 検 体

SU-1

### 3 試験目的

検体についてアンモニア、トリメチルアミン及び硫化水素の脱臭効果を試験する。

### 4 試験概要

検体及び対照(水)をそれぞれにおい袋に入れ、空気3 Lを封入した後、アンモニアをガス濃度が約500 ppmとなるように添加し、経時的に袋内のガス濃度を測定した。また、トリメチルアミン(約50 ppm)及び硫化水素(約100 ppm)についても同様に試験した。

### 5 試験結果

試験結果を表-1~3及び図-1~3に示した。

表-1 アンモニアの試験結果

(単位 : ppm)

検体	経過時間 (min)				
	10	30	60	120	180
検体	250	220	200	190	190
対照	340	240	220	210	190
空試験	490	480	480	460	440

初期条件 : ガス濃度 約500 ppm

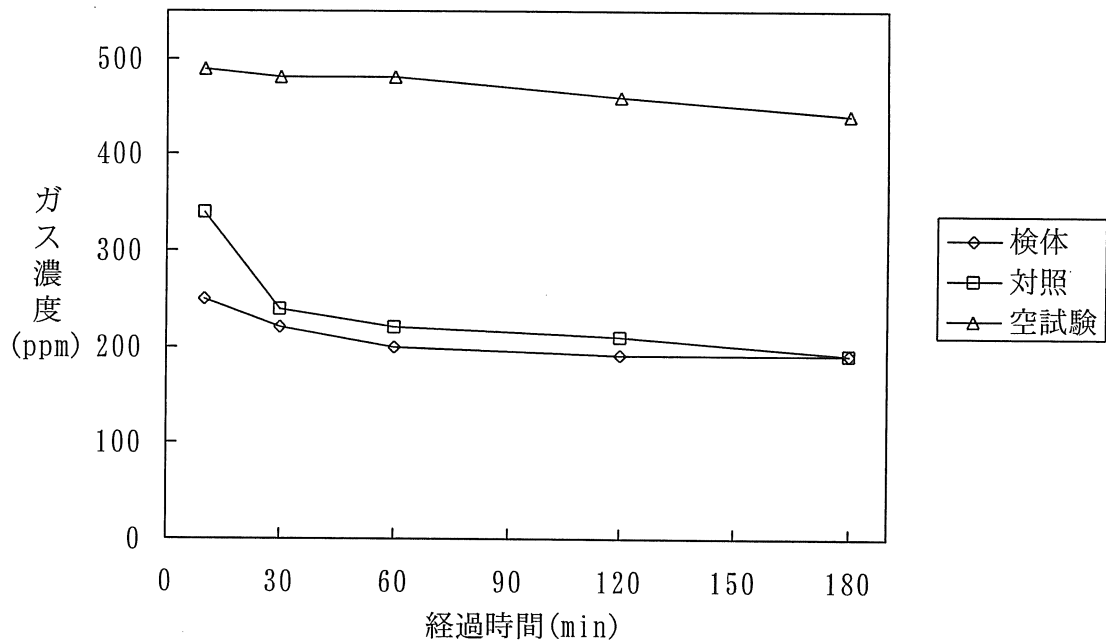


図-1 アンモニアの試験結果

表-2 トリメチルアミン試験結果

(単位 : ppm)

検体	経過時間 (min)				
	10	30	60	120	180
検体	43	34	28	27	25
対照	48	39	34	30	29
空試験	50	50	50	50	50

初期条件 : ガス濃度 約50 ppm

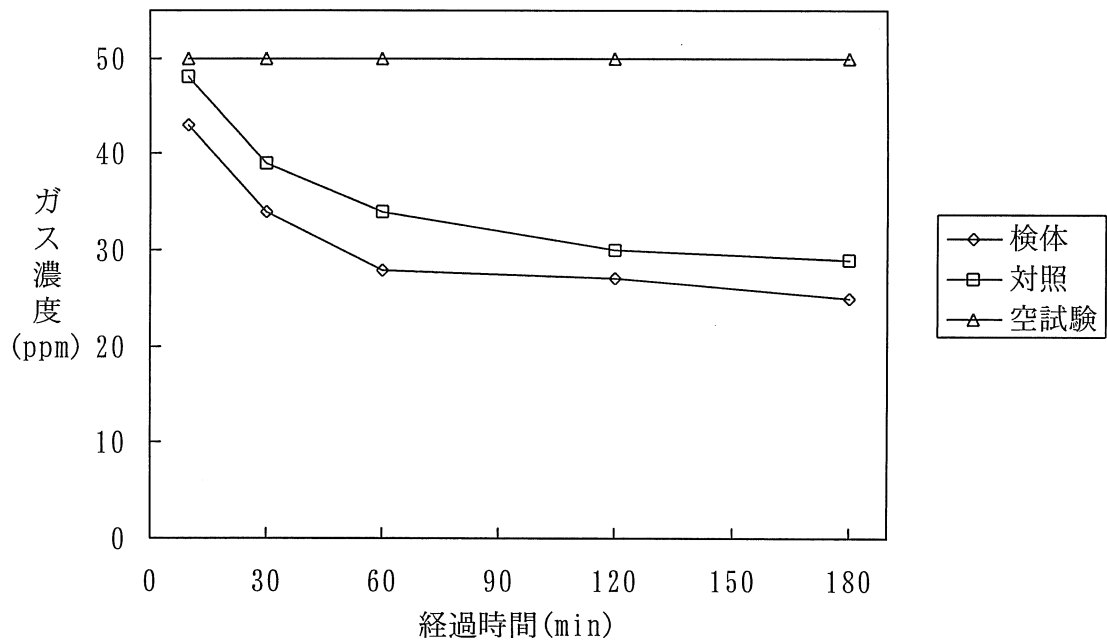


図-2 トリメチルアミンの試験結果

表-3 硫化水素試験結果

(単位：ppm)

検体	経過時間 (min)				
	10	30	60	120	180
検体	95	90	83	73	62
対照	100	100	100	100	100
空試験	100	100	100	100	100

初期条件：ガス濃度 約100 ppm

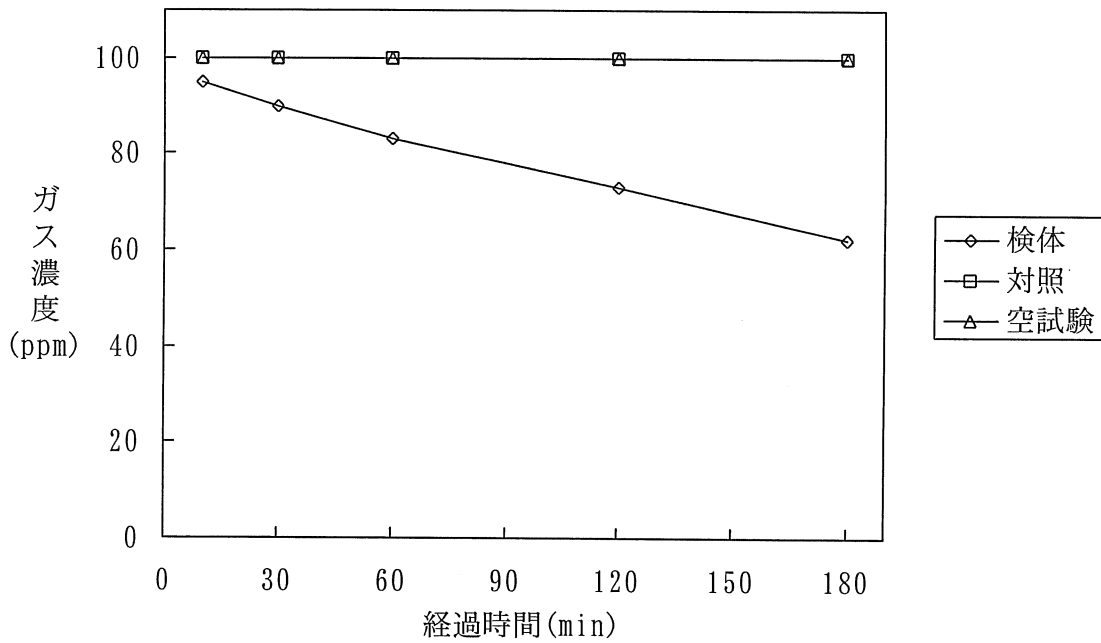


図-3 硫化水素の試験結果

## 6 試験方法

### 1) 試薬及び器具

におい袋[有限会社 ミヤコビニル加工所]

アンモニア水(28 %, 特級)[小宗化学薬品株式会社]

トリメチルアミン水溶液(28 %)[東京化成工業株式会社]

硫化水素：硫化鉄に希硫酸を加えて発生させたガスを用いた。

ガス検知管[株式会社 ガステック]

### 2) 操作

検体及び対照(水)(各2 g)をそれぞれにおい袋(25 cm×40 cm)に入れ、ヒートシールを施した後、空気3 Lを封入し、ガス濃度が約500 ppmとなるようにアンモニアを添加した。これを室温下で放置し、10、30、60、120及び180分後にガス検知管により袋内のガス濃度を測定した。また、トリメチルアミン(約50 ppm)及び硫化水素(約100 ppm)についても同様に試験した。

なお、検体及び対照を入れずに同様な操作を行い、これを空試験とした。

以 上